

町を飲み込んだ

9.12 豪雨災害

昭和 51 年 9 月 12 日、安八町を襲った豪雨災害から今年で 40 年が経ちました。技術が発展し、私たちの生活が、より安まじいものがあります。この 40 年という節目を良い契機として、今一度、災害・防災について見つめ直してみませんか。

結地区

町内に浸入してきた水は結地区まで広がることとなり、全域で浸水被害が発生した。



結小学校へ避難する住民

牧地区

揖斐川の旧堤坊（牧地区の中央を南北に走っていた）より東側は全域で水に浸かってしまったが、西側の浸水は免れた。



牧小学校を襲う濁流

決壊時の町全景と各地区の状況



9月13日、町南側からの全景写真
(国土交通省撮影)

被害の概況

家屋半壊	84 世帯
家屋床上浸水	1,744 世帯
家屋床下浸水	366 世帯
死者	1 人
田畑埋没	16 ヘクタール
田畑冠水	870 ヘクタール
農作物収穫	皆無
被害総額	140 億円

(町役場南東に建てられた災害建立碑より)

森地区に徐々に広がり、町の西側に位置する牧地区や、北側に位置する結地区にもその手を伸ばしていきました。

町民の大多数は各地区の小学校や中学校などに避難したほか、揖斐川や長良川堤防に避難した方々もいました。

堤防が決壊したことを受けて、町の災害対策本部は自衛隊の出動を要請。床上浸水により、取り残された人の救助や避難所での救済物資の配布、避難所での生活補助などが行われました。

町内へのさらなる水の流入を防ぐため、決壊場所の復旧作業が行われ17日には仮締切が完了しました。水が町内からほぼ完全に取除かれたのは、堤防が決壊した12日から一週間が経った19日でした。堤防が元の状態に戻るまでには決壊から1ヶ月の月日を要しました。

復旧作業と並行して、水のひいた地域から防疫のための消毒も行われました。当時は汲み取り式便所であったため、その尿や、水で流されたゴミなどにより町内全域が汚れてしまったためです。

伝染病を予防するために、4日をかけて町内全戸の消毒を行った結果、伝染病患者は1人も発生しませんでした。